



## 移住定住促進事業 移住サポートセンター業務

いいたて移住サポートセンター 3ど°を中心に、移住定住促進事業を展開しています。

令和7年度からは、いいたて村の道の駅までい館にもサテライト相談窓口を開いて、村を訪れる皆さんとの接点を増やし、移住相談や情報提供を行っています。また、首都圏での移住イベントにも出展して飯館ぐらしの魅力を伝えています。

3ど°では、移住後の相談への対応、地域おこし協力隊の活動のサポートも行っています。また、長く村で暮らす皆さんと新たな村民が交流する機会の創出、ふるさと住民の皆さんに感謝を伝えるイベントの開催、空き家対策などにも取り組んでいます。



上は道の駅のサテライト相談窓口と、ふるさと住民向けイベント「おかえり、ただいま、はじめて感謝祭」。右は首都圏での移住イベント「第21回ふるさと回帰フェア2025」「福島くらし＆じごとフェア2025」の様子。



## 魅力向上発信事業 ギョーム・ティレル学校と交流

「食」を通じた交流が続くフランス・パリの公立ギョーム・ティレル学校を、魅力向上発信事業の担当職員が、農家レストラン「氣まぐれ茶屋ちえこ」の佐々木千榮子さん（佐須）、事業に協力する日本調理技術専門学校（郡山市）と共に訪問しました。飯館村の現状などについて話をしながら、佐々木さんは学校の厨房で調理を行い、郷土料理を関係者に振る舞いました。

同校は令和5年に続いて令和7年にも村を訪れ、「氣まぐれ茶屋ちえこ」の他、道の駅や精肉店「肉のゆーとぴあ」などを視察。飯館村の歩んできた道のりを学び、力強い食の魅力にも触れています。

佐々木さんは、現地で、もち米「あぶくまもち」を使ったおこわや柏餅、凍み餅料理などを、日仏の学生らと共に調理。飯館村の食文化の魅力を伝え交流しました。



## 飯館村の魅力を伝え人を呼び込むさまざまな事業を展開しています

令和7年度事業から

### 飯館村の魅力を深掘り 飯館YOITOKO発見!ツアー

飯館村のディープな魅力に触れていただく「飯館YOITOKO発見!ツアー」は、令和4年度にスタートし、これまで通算11回にわたり開催しています。

12月6日に開催した第11回ツアーには、県内外から27人が参加。15年ぶりに屋台が復活した山津見神社の例大祭を見学し、昼食には手づくりの郷土料理を味わっていただきました。

また、音楽家の大友良英さんをツアーゲストに迎えて、東日本大震災後における「文化の果たす役割」などをテーマにトークステージを催し、「即興オーケストラ」の体験イベントにも全員で参加しました。参加者からは「想像よりずっと飯館村が元気でほっとした」「お祭りが楽しくご飯もおいしかった」「皆さんの心に触れて元気をもらった。また訪れたい」といった感想が聞かれ、飯館村の魅力を心に刻んでいただけたようです。

※「即興オーケストラ」についてはP16をご覧ください。



### 移住検討者向けモニターツアー 移住定住「暮らし体験ツアー」

令和7年度は、2泊3日のツアーを全5回開催。第1回から第3回までを子育てファミリー層向け、第4回と第5回を若年層向けとし、工程を工夫しました。

12月5日から7日に実施した第5回のツアーには、飯館村や、地方暮らしに関心を持つ若者12人が参加。ふくしま再生の会の菅野宗夫さん（佐須）、いいたて結い農園の長正増夫さん（大久保・外内）、地域おこし協力隊の秋山聖奈さん（上飯樋）・もりの駅まごころ運営協議会の鮎川邦夫さん（小宮）など多くの村民と交流しました。積極的な質問もあり、熱量の高い雰囲気がありました。こちらのツアーも山津見神社の例大祭などに足を運び、「にぎわいづくりの取り組みが印象に残った」という声が聞かれました。ツアーの終盤では、「今後も飯館村に関わりたい」という声も聞かれ、挑戦したいことや関わり方のアイデアなどが話し合われていました。

